

## ユニオンファンド 月次レポート

第 167 号

追加型投信 / 内外 / 株式 分配金再投資専用ファンド

2022年10月6日作成

## MONTHLY TOPIC

## 第 14 期の市況と運用結果の概要

## 株価不振をドル高がカバー

ユニオンファンドは去る 9 月 30 日に第 14 期の決算を迎えました。ご支援くださっているお客様に心より御礼を申し上げます。この間の市況と運用状況等については、運用報告書でより詳細なご報告をしますが、ここではごく簡単にこの 1 年を振り返ってみることにします。

まず、基準価額ですが、当期は 5.5% の値下がりとなりました。前の第 13 期は 24.3% の値上がりでしたが、いくらか後退してしまいました。当期の特徴は、株価が大きく下落したこと、為替の円安ドル高が進んだことです。外国株は現地通貨ベースで見ますと下落率が 10~20% に達しましたが、ドルを筆頭に外国通貨が対円で値上がりし、株価の落ち込みを埋める格好となりました。

株安の最大の理由は、インフレの進行と各国中央銀行の金融引き締め、さらには景気の減速・後退への懸念といったあたりです。インフレの背景は、2020 年春以降の新型コロナウイルス感染症の拡大によって、供給網が世界各地で分断され、それ以降、供給不足状態が予想外に長引いたことが挙げられます。他方で、コロナ禍への対策として世界的に大規模な金融財政政策が発動されましたが、その景気浮揚効果が残ったこと、特に金融緩和が長期化し需要が旺盛なままだったことも重要な要素です。要は短期的な需要超過がインフレの主な原因と見られます。加えて、ロシアによるウクライナ侵略で、原油・天然ガスといったエネルギー資源や、小麦などの穀物の供給が大きく阻害されたこともインフレに拍車をかけました。

## 今後について

インフレ鎮静化の兆しはまだ一部ではありますが見え始めています。金融引き締めの終了もプラス要因として浮上してくると思われれます。景気・企業業績は悪化しそうですが、少し先になるとしてもいずれは回復に転じるでしょう。過去 1 年のマイナス要因は今後徐々に逆転し、株価も本格上昇に向かう日がやってくると思われれます。皆様には、つみたて投資を淡々と進め口数を着実に増やして行っていただければと願っています。

\*\*\*\*\*

## 運用報告会のお知らせ

11 月に運用報告会を開催します。「少し長い目で見るとき、今はどういう位置にいるのか」といった話など、投資を続けていく上で参考になりそうな内容も盛り込む予定です。詳細は最終 9 ページ目に掲載しておりますので是非ご覧いただき、ふるってご参加ください。お待ちしております。

久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

## UNION FUND REPORT

## ユニオンファンド運用状況

(2022年9月末現在)

## 基準価額

28,554 円

## 純資産総額

98 億 14 百万円

## 期間別騰落率(%)

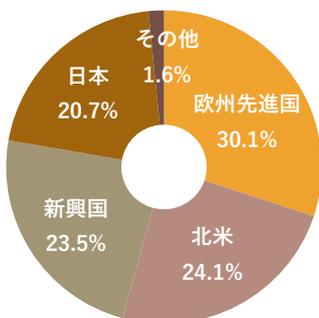
1 ヶ月	-4.68%
1 年	-5.50%
3 年	23.27%
5 年	14.28%
10 年	128.72%
設定来	185.54%

## 複利年率(%)

7.81%

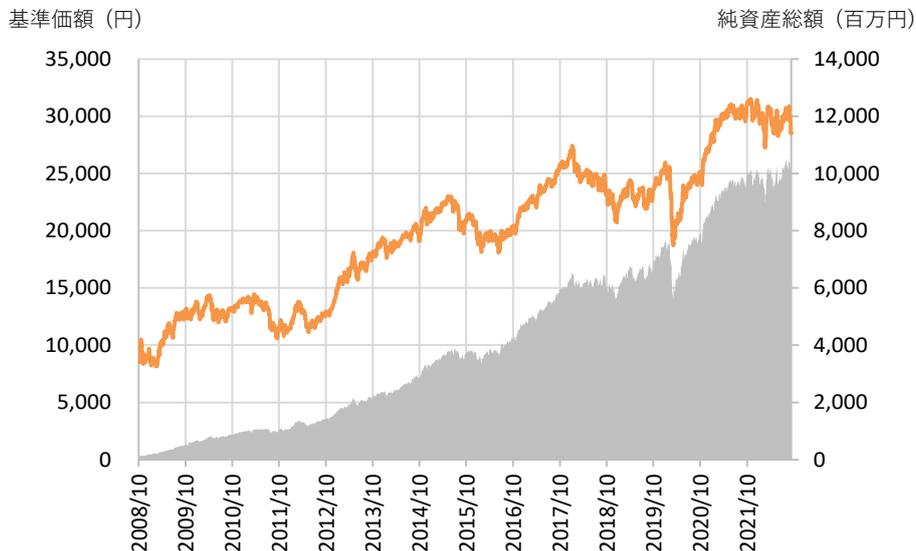
\*「複利年率」とは設定日から基準日までの騰落率を年率（複利）で表したものです。「複利年率」は過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また受益者ごとの購入時期によって異なります。

## 地域別構成比



投資部分(現金等を除く)に占める比率  
(2022年8月末現在)

## 基準価額と純資産総額の推移



## 組入ファンドの内訳

ファンド名	主な地域	組入比率(%)	月間騰落率(%)※
さわかみ F	日本	5.1%	-4.8%
スパークス F	日本	12.6%	-2.7%
キャピタル F	欧米	18.4%	-4.7%
ハリス F	欧米	18.6%	-6.4%
コムジェスト・ヨーロッパ F	欧州	10.9%	-7.2%
コムジェスト・エマージング F	新興国	19.6%	-6.0%
現金等	-	14.9%	-

※ 騰落率はユニオンファンドの基準価額に反映する日付で計算

## ファンドの特長

- ① 長期で「債券」の収益率を上回るとされる「株式」に投資します
- ② 世界の経済成長を享受するため、「グローバル」な視点で投資します
- ③ 専門性の高い複数ファンドに投資する「ファンド・オブ・ファンズ」で運用します
- ④ 実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します
- ⑤ 株価が割高と思われるときには現金比率を高め、割安局面での買い増しに備えます

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

## UNION FUND REPORT

## 2022年9月の市場動向と運用状況

## 投資環境

9月の世界の株式市場は、8月後半の下落が大きかった反動で上旬に若干上昇する場面もありましたが、その後発表された米国の消費者物価指数が予想を上回り、インフレ圧力の根強さへの警戒感が強まったことから反発は途切れ、月末までほぼ一本調子で下落しました。

欧州ではインフレが加速しており、ECB（欧州中央銀行）は上旬に0.75ポイントの政策金利引き上げに踏み切りました。米国も下旬にFOMC（連邦公開市場委員会）が3回連続となる0.75ポイントのFF金利引き上げを決めました。長期金利も大幅に上昇し、株価の下落が割安感になかなかつながらない状況となりました。インフレ高進と景気減速の悪影響は企業業績にも及びつつあり、業績見通しの引き下げなどによって株価が急落する企業が散見されました。

為替市場ではドル高の流れが続きました。下旬には日本が円買い介入に踏み切りましたが、介入が単独だった上に1回にとどまったこともあって、方向を大きく変えるには至りませんでした。

## 運用の状況

ユニオンファンドの基準価額は、円安で若干穴埋めできたものの、大幅に値下がりする外国株式市場が多かったことから、4月以来のやや大きめの下落となりました。売買につきましては、3本のファンドを中旬以降の下落局面で買い増しました。組入比率は月末時点で85.1%と、前月末とほぼ同水準でした。

## 今後の見通し

先月のこの欄で、株式市場は、①インフレ、②中央銀行による金融引き締め、③景気の先行き見通しという3つが大きな焦点となって動いていると書きましたが、その状況は現在も変わっていないと見ています。

主要中央銀行はインフレ率の高さを大きな問題と認識しており、インフレ率を大幅に押し下げることが最優先しています。景気が減速ないし後退することがあってもインフレを抑え込むとの意思は固く、政策金利の引き上げは今しばらく続く可能性が大きいと見るべきでしょう。そうなると、景気はさらに弱まることになると考えられます。今後の焦点は景気と企業業績の悪化がどの程度深刻になるかです。それ次第で当面の株式市場の様相も大きく変わってきそうです。

下旬にかけては、投資家心理の極度の悪化が目立ちました。株価が直前の安値を付けた6月中旬から7月初めにかけて見られた状況とよく似ています。弱気心理が株価下落を生み、株価下落がさらに弱気心理を広げる、という悪循環に陥っていたように思います。このように弱気が充満した状態は、しばしば売りが峠を越えた可能性を示唆します。ちょっとしたことをきっかけに、株価がスルスルツ上昇しても不思議ではありません。

とはいえ、当面は投資環境の厳しさに大きな変化はないと見られますので、株価の下落局面では丹念に買い増しをするものの、基本的にはもう少しの間、やや慎重に運用していく方針です。

運用責任者 久保田徹郎

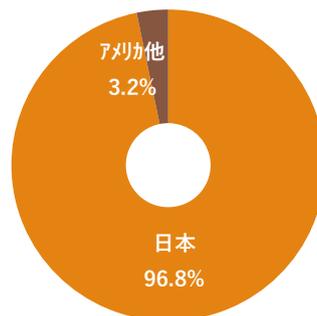
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

# さわかみファンド

基準価額の推移



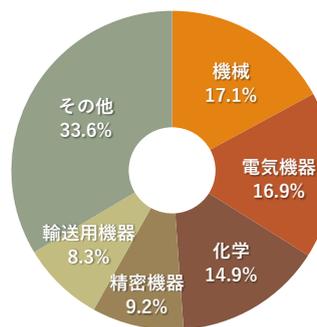
国別構成比



組入銘柄トップ10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 ダイキン工業	4.7%	日本	機械	エアコン世界首位
2 浜松ホトニクス	3.9%	日本	電気機器	光検出器の世界的企業
3 日本電産	3.8%	日本	電気機器	精密モーター世界首位
4 プリチストン	3.7%	日本	ゴム製品	タイヤ世界大手
5 テルモ	3.6%	日本	精密機器	医療機器 (カテーテル)
6 信越化学工業	3.3%	日本	化学	塩ビ・シリコンエー世界大手
7 トヨタ自動車	3.0%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
8 TOTO	2.7%	日本	ガラス・土石製品	衛生陶器国内首位
9 花王	2.6%	日本	化学	トイレット首位
10 セブン&アイHD	2.3%	日本	小売業	大手総合小売業
<b>上位10銘柄</b>	<b>33.6%</b>	<b>現金等</b>	<b>12.7%</b>	

業種別構成比



※ 業種：東証33業種、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 < 2022年9月末現在 >

# スパークスF (スパークス・集中投資・日本株ファンドS)

基準価額の推移



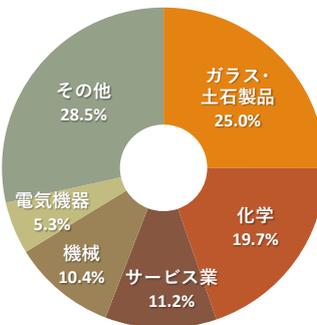
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド) ※組入比率の記載はなし。証券コード順。

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
太陽HD		日本	化学	プリント配線板用レジスト材等
クミアイ化学工業		日本	化学	国内農業大手
東洋炭素		日本	ガラス・土石製品	特殊黒鉛製品 (等方性黒鉛)
MARUWA		日本	ガラス・土石製品	セラミック基板世界トップ
フジミインコーポレーテッド		日本	ガラス・土石製品	半導体用研磨材等
マックス		日本	機械	鉄筋結束機、スケーラー
全国保証		日本	その他金融業	独立系の住宅ローン保証会社
ダイレクトマーケティングミックス		日本	サービス業	営業・マーケティング代行等
トーセイ		日本	不動産業	不動産流動化・開発・賃貸等
京成電鉄		日本	陸運業	東京・千葉方面の大手私鉄
<b>現金等</b>	<b>4.7%</b>			

業種別構成比(マザーファンド)



※ 業種：東証33業種、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 < 2022年8月末現在 >

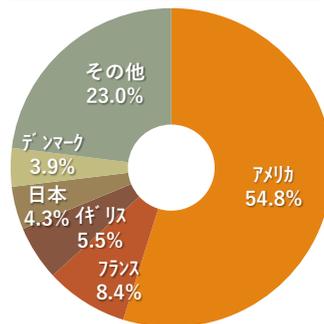
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

# キャピタルF (キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド(LUX)クラスZ)

基準価額の推移



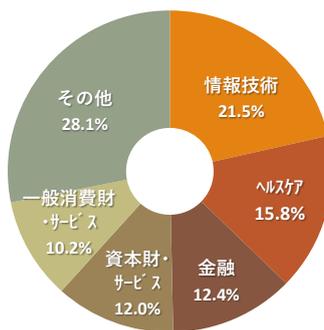
国別構成比



組入銘柄トップ10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 Microsoft	2.2%	アメリカ	情報技術	世界最大のコンピュータ・ソフト
2 UnitedHealth	2.0%	アメリカ	ヘルスケア	医療保険、ヘルスケアサービス
3 Broadcom	2.0%	アメリカ	情報技術	無線・通信向け半導体等
4 Apple	1.9%	アメリカ	情報技術	デジタル機器・ソフト大手
5 Novo Nordisk	1.8%	デンマーク	ヘルスケア	糖尿病薬等世界首位
6 AstraZeneca	1.8%	イギリス	ヘルスケア	薬品会社
7 Chevron	1.7%	アメリカ	エネルギー	石油メジャー
8 ASML	1.6%	オランダ	情報技術	半導体製造装置メーカー
9 TSMC	1.6%	台湾	情報技術	半導体メーカー
10 Alphabet	1.4%	アメリカ	コミュニケーション・サービス	グーグルの持ち株会社
<b>上位10銘柄</b>	<b>18.0%</b>		<b>現金等</b>	<b>8.1%</b>

業種別構成比



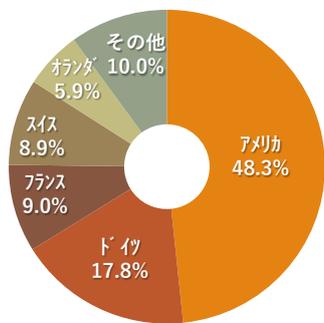
※ 業種：MSCI世界産業分類基準の11セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2022年8月末現在>

# ハリスF (ALAMCOハリス グローバルバリュース株ファンド2007)

基準価額 (分配金込み) の推移



国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 ALPHABET	6.1%	アメリカ	メディア・娯楽	グーグルの持株会社
2 FISERV	4.4%	アメリカ	ソフトウェア・サービス	金融機関向け情報処理サービス
3 BNP PARIBAS	3.8%	フランス	銀行	フランス大手銀行
4 AMAZON.COM	3.6%	アメリカ	小売	ECサイト、ウェアサービス
5 MERCEDES-BENZ	3.4%	ドイツ	自動車・自動車部品	自動車世界大手
6 PROSUS	3.3%	オランダ	小売	インターネットサービス
7 CHARTER COMMUNICATIONS	3.0%	アメリカ	メディア・娯楽	ケーブルテレビ、携帯電話
8 BERKSHIRE HATHAWAY	2.8%	アメリカ	各種金融	保険事業を主軸とする持株会社
9 HCA HEALTHCARE	2.8%	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス	米大手病院経営会社
10 ALLIANZ	2.7%	ドイツ	保険	総合保険大手
<b>上位10銘柄</b>	<b>36.1%</b>		<b>現金等</b>	<b>2.3%</b>

業種別構成比(マザーファンド)



※ 業種：MSCI世界産業分類基準の24産業グループ、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2022年8月末現在>

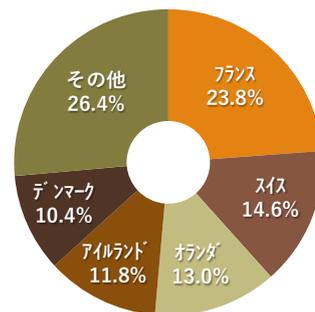
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

# コムジェスト・ヨーロッパF (コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド90)

基準価額の推移



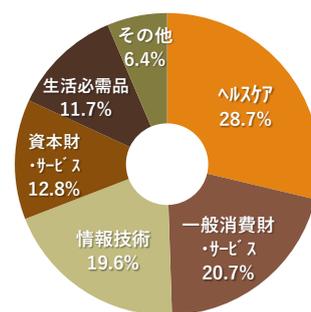
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 NOVO NORDISK	7.7%	デンマーク	ヘルスケア	糖尿病薬等世界首位
2 ASML	6.0%	オランダ	情報技術	半導体製造装置メーカー
3 ESSLORLUXOTTICA	5.9%	フランス	一般消費財・サービス	光学製品
4 LVMH	4.7%	フランス	一般消費財・サービス	ファッション等高級ブランド世界大手
5 LINDE	4.4%	ドイツ	素材	産業ガス世界大手
6 ACCENTURE	4.1%	アイルランド	情報技術	総合コンサルティング会社
7 ALCON	3.8%	スイス	ヘルスケア	眼科医療機器・薬剤
8 EXPERIAN	3.4%	ドイツ	資本財・サービス	データベース・分析ツールの提供
9 STRAUMANN HD	3.3%	スイス	ヘルスケア	歯科インプラントメーカー
10 ICON	3.2%	アイルランド	ヘルスケア	医薬品開発受託
上位10銘柄	46.4%	現金等	6.9%	

業種別構成比(マザーファンド)



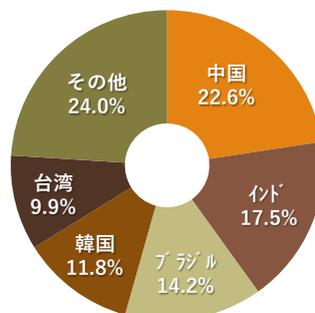
※ 業種：MSCI世界産業分類基準の11セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2022年9月末現在>

# コムジェスト・エマージングF (コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド95)

基準価額の推移



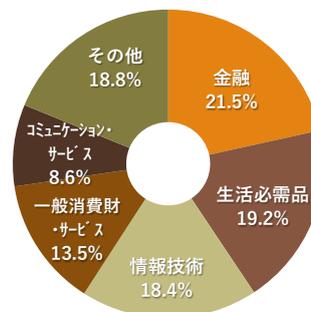
国別構成比(マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 INNER MONGOLIA YILI	5.5%	中国	生活必需品	乳製品国内大手
2 HOUSING DEVELOP. FINANCE	5.3%	インド	金融	インド最大手の住宅開発金融会社
3 TSMC ADR	4.9%	台湾	情報技術	半導体メーカー
4 BB SEGURIDADE	4.4%	ブラジル	金融	保険大手
5 FOMENTO ECONOMICO	4.4%	メキシコ	生活必需品	飲料、コンビニチェーン
6 MARUTI SUZUKI	4.2%	インド	一般消費財・サービス	スズキの子会社
7 LOCALIZA RENT A CAR	4.1%	ブラジル	資本財・サービス	南米最大のレンタカー会社
8 DELTA ELECTRONICS	3.8%	台湾	情報技術	電源等の電子機器
9 AIA	3.7%	香港	金融	生保・金融サービス
10 POWER GRID OF INDIA	3.5%	インド	公益事業	電力関連(送電網)
上位10銘柄	43.8%	現金等	11.9%	

業種別構成比(マザーファンド)



※ 業種：MSCI世界産業分類基準の11セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2022年9月末現在>

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

## NOTICE

## 業務管理部からのお知らせ

### 取引残高報告書について

今回、「2022年7月～9月」の期間中にお取引があったお客様を対象に、郵送にてご報告しています。

- ※ 口座に残高があるお客様で、前回の「取引残高報告書」作成日以降お取引がない場合には、1年毎に「取引残高報告書」にてご報告いたします。

#### 「お取引の明細と預り金の残高明細」の見方

記載対象期間内にお取引された明細および作成日現在のお預り金の残高です。

- ※ 最後に表示される「お預り金」につきましては、“作成日現在”でユニオンファンドの買付が完了していない場合にはその金額が、完了している場合には「0円」が表示されます。

#### 「お預り証券等の残高明細」の見方

お預り証券等の残高明細（イメージ）

銘柄名	数量	評価金額合計 [a]	運用損益[a-b+c]	円
	基準価額	投資金額 [b]	※a,b,c 及び運用損益は全預り通算で算出	
( 預り区分 )	評価金額	受取金額 [c]		
( 決算日 )	取得単価	個別元本		

数量	ユニオンファンドの残高口数です。
基準価額	作成日（2022年9月30日）現在の基準価額です。
評価金額	作成日現在の残高の「評価金額」です。 （「評価金額」＝「数量」×「基準価額」÷10,000で算出されます。）
取得単価・個別元本	これまでユニオンファンドを取得された価額の加重平均です。 一般口座でのお取引の場合は、「個別元本」のみが表示されます。
評価金額合計 [a]	評価金額の合計です。
投資金額 [b]	ご購入された金額の累計です。 ※ 相続等により入出庫があった場合は、入出庫分の購入金額または取得価額に相当する金額が増減されます。
受取金額 [c]	ご解約された金額及び受取分配金額の累計です。 ※ ユニオンファンドは設定来、分配金を出しておりません。
運用損益[a-b+c]	作成日現在の運用損益です。 「運用損益」＝「評価金額合計」－「投資金額」＋「受取金額」

ご不明な点がございましたら、弊社業務管理部（TEL:0263-38-0725）までお問い合わせください。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

## RISK AND FEE

## ユニオンファンドのリスク・手数料

## 『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。－

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの主なリスクは、「価格変動リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」です。

## 『ユニオンファンド』の手数料等

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。－

**申 込 手 数 料** お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。  
※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

**換 金 手 数 料** ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

**信 託 財 産 留 保 額** ありません。

**信 託 報 酬** 純資産総額に年 0.88%（税抜 年 0.8%）の率を乗じた額です。  
毎日、信託財産の費用として計上され、基準価額に反映されます。  
[\*実質的な信託報酬（概算）：純資産総額に対して年 1.8% ± 0.3%（税込）]  
\*実質的な信託報酬の率は、『ユニオンファンド』が投資対象とする投資信託証券にかかる信託報酬を含めたものです。あくまでも目安であり、組入状況により変動します。  
※ 信託報酬にかかる税金は、税法等が変更・改正された場合、変更になることがあります。

**そ の 他 の 費 用** 上記のほか、次の手数料・費用等が信託財産の費用として計上され、基準価額に反映されます。

- ① 組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料（消費税等相当額の費用を含みます。）
- ② 信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立て替えた立替金の利息、監査法人から監査を受けるための費用（監査費用）（消費税等相当額を含みます。）

※ 監査費用は弊社が一部または全部を負担することがあります。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

## NOTICE

## 『ユニオンファンド運用報告会』開催のお知らせ

## ～第14期（2021年10月1日～2022年9月30日）の運用状況についてご報告します～

ユニオンファンドは10月20日に設定14周年を迎えます。世界的なインフレ進行とその対抗策である利上げや金融引き締め動向により、世界の株価は不安定な動きを続けた1年となりましたが、その第14期（2021年10月1日～2022年9月30日）の運用結果および弊社運用の考え方をご報告いたします。

報告会終了後には、リモート懇親会（自由参加）を開催してごっくばらんに参加者の皆さんとの意見交換も行う予定ですので、お気軽にご参加ください。

日時	① 2022年11月24日（木） 18：30 ～ 20：00 ② 2022年11月26日（土） 10：00 ～ 11：30 ※報告会終了後にリモート懇親会を行います（参加は任意、申込も不要です）
会場	Zoomによるオンライン形式（無料）
対象	弊社取引口座を開設されているお客様
定員	各50名（お申込み順）
講師	ユニオン投信(株) 運用責任者 久保田 徹郎、 赤津 正
内容	・第14期（2021年10月1日～2022年9月30日）の市場環境と運用結果および売買状況のご報告 ・お客様の運用状況と長期つみたて投資について
申込方法	以下のリンクまたはQRコードよりお申し込みください。 ① 11月24日申込（申込締切：11月21日） ② 11月26日申込（申込締切：11月23日）   ご登録いただいたメールアドレスに、当日の参加URLが送信されます。 ※メールが届かない場合は、登録アドレスの誤入力や迷惑メール設定（@zoom.usから送信）の可能性がります。設定等をご確認の上、再度上記アドレスからご登録ください。
参加方法	当日は、登録完了案内のメールに記載された参加URLからログインしてください。 Zoomの使い方はこちらをご参照ください。 <a href="https://support.zoom.us/hc/ja/categories/200101697">https://support.zoom.us/hc/ja/categories/200101697</a>

- ・この報告会は、投資信託その他金融商品についての具体的な説明を行い、その取引を誘引することがあります。
- ・金融商品等への投資は、その価格の変動等により損失を生じることがあります。
- ・金融商品等ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、目論見書等をよくお読みいただき、ご自身でご判断ください。

**個人情報の利用目的** お申込みにあたり入力された個人情報につきましては、お申込みの報告会に関するご案内およびお問い合わせへの対応ならびにこれらの管理のために利用します。また、弊社が提供する商品・サービスおよびセミナーに関する情報をお客様にご案内させていただくことがございますので、あらかじめご了承ください。

**個人情報の取扱い** お客様の個人情報につきましては、漏えい等を防止するため、必要かつ適切な安全管理措置を実施いたします。その他、弊社における個人情報の取扱いに関しましては、弊社ホームページに記載の「プライバシーポリシー」および「個人情報の利用目的」をご確認ください。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。